

事例2

テーマ：週休三日制の導入

概要：従来型特養の1フロアについて、週休三日制（10時間勤務/日）を導入し、働き方の選択肢を増やすとともに、朝夕の職員の人員配置数を増加させることにより、多忙な時間帯の業務負担を軽減させる。

事業所概要

事業所名：特別養護老人ホーム天美苑（海安市七山964-1）

サービス種別：老人福祉施設（定員：80人）

介護職員数：37人

プロジェクトメンバー：介護主任（2人）、介護副主任（3人）、生活相談員（1人）

事業所が抱えていた課題（取組に至った背景）

課題：従来型特養（2フロア）において、日中に必要な介護職員が各5人のところ、現状の人員配置（8時間勤務/日）では、4人しか確保できないフロアがあり、当該フロアでは朝食・夕食の時間帯に2人しか配置できない日がある。

- ◆ 1日のトータルで見た場合、恒常的に人員不足というわけではなく、特定の時間帯のみ人員が不足
- ◆ もう一方のフロアから応援で人員を補った場合、逆に当該フロアの人員が不足するという「負の連鎖」
- ◆ 清掃のパート職員や機能訓練指導員等も介護現場に入らざるを得ない

課題解決のプロセス

1日あたりの勤務時間数を10時間とすることにより、朝夕の時間帯に2人以上の職員を配置することで特定時間のみの人員不足の解消を図る。ただし、日中の職員数は最大5人→4人に（シフト例）

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
夜勤（21～8）			朝食準備	朝食																				
A（7～18）			離床介助	朝食	排泄	申し送り	処理		ST入退		休憩	更衣	排泄		行事・レク・おやつ	排泄	夕食準備		夕食					
B（8～19）				朝食	排泄	排泄	水分補給		更衣準備	更衣	休憩	排泄		入浴		夕食準備	夕食		就寝ケア					
C（9～20）						排泄	入浴用着		更衣準備	更衣	休憩		入浴		夕食準備	夕食		就寝ケア						
D（11～22）									更衣準備	更衣	排泄		行事・レク・おやつ	排泄	休憩	夕食	口腔ケア・食室片付け					おむつ交換		
フロア人数	1	2	2	3	3	3	3	2	3		2		2		3	4	3	2	1		2	1		
現在のフロア人数 （日中5人体制）	1		2		3		2	4	2	3		2		2		3		2		1	1	1		
現在のフロア人数 （日中4人体制）	1	1		2					1	3		2		2	1		2			1	1	1		

取組時のポイント・工夫

- **他業務の改善も併せて検討**
当該事業所の場合、機械浴の一部利用者をリフト浴に変更することで、日中の職員が4人に減少しても対応可能に。
- **選択的週休三日制に**
導入フロアのみならず、全職員にアンケートを実施し、プライベートや生活への影響も含めたメリット・デメリットや現状の勤務体制が週休三日制のどちらで働きたいかを聴取。
- **一部フロアから試行的に導入**
全てのフロアから導入せず、様子を見ながら段階的に実施

質的な成果

- ✓ 勤務時間数が増加することによる体力的な疲労よりも、複数人でケアができる安心感により、職員の心身の負担が軽減
- ✓ 休日数の増加に伴い、よりリフレッシュできるように

量的な成果

- ✓ 1週間当たりの勤務時間数（40時間）に変更がないため、公休日が増加
週休二日制：公休日 113日
週休三日制：公休日 **163日**

 約**1.5倍**

同様の取組を検討している事業所へのアドバイス

今回の取り組みは、①朝・夕の忙しい時間帯の人員配置を厚くすること、②働きやすい職場環境づくりの一環とすること、の2点を大きな目標とした。事前にシフトパターン等のシミュレーションを十分に行ったうえで、趣旨を職員に丁寧に説明し、“自分達で自分達の働き方を変えていこう”という意識づくりから始めたことと、一度に全て変えてしまうのではなく、まずは1フロアから始めてみて、“だめだったら元に戻せばいい”という考えで取り組んだことが、今回の計画をスムーズに実行に移せた要因だったと感じる。